

平成 21 年 6 月 18 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18720052
 研究課題名（和文） 蕪村・檜良・暁台を中心とする中興期京都・伊勢俳壇の総合的研究

研究課題名（英文） A Study on the Kyoto Group and the Ise Group in the Late Eighteenth-Century *Haikai* : Focusing on Buson, Chora and Kyotai

研究代表者

寺島 徹 (TERASHIMA TORU)

桜花学園大学・人文学部・講師

研究者番号：30410880

研究成果の概要：本研究において、中興期俳諧の主導的役割を担った蕪村と暁台・檜良の關係に焦点をあて、安永・天明期の京都伊勢という場（俳壇）を対象に調査を行った。「逸漁文庫俳諧資料」（天理図書館綿屋文庫蔵）や暁台新出資料の調査をもとに、「座の文芸」である俳諧において、お互いの俳壇がいかに影響しあったのか、それが作品に、どのように有機的に投影されたのかを解析した。俳壇的立場からみることにより、蕪村と暁台における共通志向に「からび」の理念があるという仮説をたてた。また、『風羅念仏』関連資料の調査を行うことで、安永・天明期に蕉風復興運動が推進された経緯の一端について明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	800,000	0	800,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	240,000	2,940,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：暁台、蕪村、檜良、中興期俳諧、蕉風復興運動

1. 研究開始当初の背景

(1)従来の研究史では、中興期の俳壇研究と作品研究は、ほとんど乖離した状態で行われていた。俳諧が連句を中心とする「座の文芸」である以上、両者は、有機的に結びつけられるべきであり、その観点からの考察は、芭蕉時代の論考には見られるものの、蕪村の中興期時代においては、ほとんど皆無であるとい

ってよい。

(2)また、近年、中興期俳諧の研究は、おもに蕪村中心に通時的な視点で行われてきた。最近の蕪村研究は、清登典子『蕪村俳諧の研究』（和泉書院，2004）のように、江戸座出身の蕪村の出自を問う研究、あるいは、藤田真一『蕪村 俳諧遊心』（若草書房，1999）、田中道雄『蕉風復興運動と蕪村』（岩波書店、

2000) 池澤一郎「村上霽月の転和吟について 蕪村・漱石に学ぶもの」(明治大学教養論集 331号 19~44 2000)など、漢詩文(古文辞学派)からの影響を問う研究が多くみられ、成果をあげている。その結果、従前のような蕪村作品を芭蕉の影響のもとに還元したり、蕪村の写実性や近代性を一面的に著しく強調する研究は、ほぼ淘汰された。ただし、蕪村の国際的な価値を論ずる上でも、共時的な視野から、他の中興期俳人との相違点と共通項を明確にする必要がある。いまだ中興期俳諧において、蕪村が他流派とどのような俳壇的交流関係にあったのか鮮明にされているとはいえない。

2. 研究の目的

(1)新しい連句・俳壇資料を調査、整備することにより、俳壇の違いによる差違を分析し、江戸座・伊勢風という出自が、蕪村・暁台・樗良のそれぞれの俳壇に、どのように影響しているのか解析する。

(2)これまで、蕪村が他流派とどのような俳壇的交流関係にあったのか明らかにされていない状況にあった。安永期の京都において、頻繁に交渉した、暁台・樗良と蕪村の関係を俳壇レベルで考究する必要があるため、江戸座出身俳人(蕪村)と地方系蕉門(樗良、暁台)の趣向のたて方の違い、俳壇経営の手法の差違について分析することを目的とする。『風羅念仏』法要を一つの軸とした蕉風復興運動の俳壇的側面についても明らかにする。

3. 研究の方法

(1)京都・伊勢俳壇における、蕪村と樗良・暁台の基本調査を行うため、蕪村・樗良・暁台関係俳書(主に和装本)の探査を中心に現地調査に赴いた。関西方面では、天理大学図

書館・財団法人柿衛文庫等に赴き、書誌的な調査を行った。天理図書館綿屋文庫蔵の伊勢資料である「逸漁俳諧資料集」を中心としたマイクロについて、内容の把握、入集者の調査を行った。これらの資料をもとに、逸漁俳書の翻刻、一部データベース化を遂行した。また、関連資料を所蔵する早稲田大学図書館中村俊定文庫調査のため、東京方面への出張調査を行った。尾張・三河においても蓬左文庫、岩瀬文庫を中心に調査を行った。さらに、古書肆、一誠堂書店(東京都)、藤園堂書店(名古屋市)、山本美術店(京都市)、夢望庵(滋賀県)などで、伊勢・京都・近江俳壇に関連する一次資料(和本)および俳諧関連研究図書の検索もおこなった。

(2)調査をもとに、逸漁資料の翻刻・データベース化を試みた。その資料にもとづき、蕪村一派・暁台中と、暁台中・逸漁一派の連句の語彙・付合手法を比較することにより、蕪村と暁台の連句における作法の違い、江戸座・伊勢風などの流派による相違点を分析しようとした。

4. 研究成果

(1)蕪村に比べて、資料が未整理である暁台・樗良の書簡、草稿などの一次資料について、搜索、書誌調査を行い、翻刻、データ化につとめた。『暁台折手本』の分析、一連の暁台書簡の紹介などは、その成果である。なお、『暮雨巷句巢』を中心とした暁台の発句集の整備は未整理のままに終わった。今後の課題としたい。

(2)とくに連句の面からも、暁台周辺の連句評点集の調査と分析を行い、関係俳書(真蹟資料)の探査を中心に東京・名古屋・伊勢などで現地調査を行った。とくに蓬左文庫(堀田文庫)の連句資料の判詞に注目し、暁台の連句の手法を考える基礎データを得るため、

その師、蓮阿坊白尼、反喬舎巴雀などの連句評点を調査し、翻刻した。その結果、「三句のわたり」「指合」などに関する基礎データを得ることができた。このほか橋良についても、「三浦橋良の連句評点について(1)」（蒼穹 90号）等を発表、書誌的な調査や資料紹介を行った。この一連の資料は、今後、江戸中期俳諧の蕉門系連句研究を評点集から考察する上で役立つものと思われる。

(3) これまで調査・翻刻してきた伊勢俳壇資料「逸漁文庫俳諧資料集」（綿屋文庫蔵）を含む、逸漁・暁台資料をもとに、術語「からび」を中心とした資料収集・分析を行った。逸漁文庫資料の安永2年の条に俳諧伝授の様子が記されるが、この場において蕉門俳諧における「老」や「瘦」の概念に通じる「からび」の措辞が見え、暁台の蕉風意識を探る上で新たな内容を含んでいることについて分析した。さらにこの調査・分析の過程で、京都、山本美術店の協力により、あらたに暁台の幻住庵入庵資料『古奈无』（安永9年2月）の自筆断簡（架蔵）を発見した。この新資料において京都・尾張俳壇と近江俳壇との関係を探ることにより、暁台と蕪村の幻住庵における交渉（安永8年9月）について「からび」の面からも考察が可能になった。同資料の紹介をもとに研究発表「蕪村と暁台の交流 蕉風の「からび」を視座として」（東海近世文学会）を行った。また、昨年度までに調査していた尾西歴史民俗資料館蔵の磯足資料の整理も行い、磯足評『蕉門俳諧附合安波世鏡』には蕪村に対する批評の書入があり、「からび」についても言及がみられる点について分析を進めた。このような従来看過されてきた暁台周辺の資料を俎上にのせ、俳系の異なる暁台（伊勢派）と蕪村（江戸座）に通底していたと考えられる蕉風意識の一端についても検討し、「蕉風復興運動と加藤暁台 蕪村

との交流をめぐって」（日本近世文学会）として研究発表を行い、新知見について報告した。「からび」を作品個々のレベルに還元して分析してゆく点については、今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

寺島徹、[翻刻]暁台連句集『暮雨巷書留』（2）～（5）、『蒼穹』77号～80号、（2）pp.26-33（3）・（4）pp.26-31（5）pp.28-31、（2）2006年5月（3）2006年7月（4）2006年9月（5）2006年11月、査読無

寺島徹、『暁台折手本』（仮題）の考察、俳文学会『連歌俳諧研究』111号、pp.34～41、2006年9月、査読有

寺島徹、『化政期尾張俳人真蹟帖』（仮題）の紹介（上）・（下）、『蒼穹』81～82号、（上）pp.26-31（下）pp.22-26、（上）2007年1月（下）2007年3月、査読無

寺島徹、暁台書簡の考察（翻刻と解題）、『桜花学園大学人文学部紀要』9号、pp.1～12、2007年3月、査読無

寺島徹、蓮阿坊白尼の連句評点について（1）～（5）、『蒼穹』83～87号、（1）pp.3-15（2）pp.26-33（3）pp.26-33（4）pp.26-31（5）pp.26-30、（1）2007年5月（2）2007年7月（3）2007年9月（4）2007年11月（5）2008年1月、査読無

寺島徹、江戸中期の俳諧句集における仮名遣いについて、『桜花学園大学人文学部紀要』10号、pp.172～180、2008年3月、査読無

寺島徹、[尾張俳人]武藤巴雀の連句評点

について(上)(下)『蒼穹』88・89号、
(上)pp.26-31(下)pp.26-31、(上)2008
年3月(下)2008年5月、査読無
寺島徹、三浦樗良の連句評点について
(1)『蒼穹』90号、pp.26-31、2008年
6月、査読無

[学会発表](計2件)

寺島徹、蕪村と暁台の交流 蕉風の「か
らび」を視座として、東海近世文学会
9月研究例会、2008年7月12日、名古屋
市熱田神宮文化殿

寺島徹、蕉風復興運動と加藤暁台 蕪村
との交流をめぐって、平成20年度日本
近世文学会秋季大会、2008年9月28日、
北海道大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺島 徹 (TERASHIMA TORU)
桜花学園大学・人文学部・講師
研究者番号：30410880

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：